

[ライブ・サーティー]

Live30

<http://www.omichikai.or.jp>

VOL.

210

2015年
5月-6月



CLOSE UP

ヘルスケア分野で求められるコミュニケーションやチームワークの基礎を学ぶ

平成27年度新人教育集合研修を開催

OMICHI ACADEMY

International Anesthesia Research Society 2015(国際麻酔研究学会)

第6回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会

第30回日本環境感染学会総会・学術集会

OMICHI SCRAMBLE

第12回 NPO医療講演会を開催

ベトナムから医師・看護師ら4名が来院

地域ケアマネジャー向け研修会を開催

INFORMATION

森之宮病院神経内科 藤本宏明医師が医学博士号を取得

入職医師・歯科医師のご紹介

在宅事業部に新しく安井学統括管理者が就任



最優秀賞
「Live30」
雑誌掲載の2014年10月号において
最も優秀であったことを認め、
日本経済新聞社より
賞状を贈ります。

日本経済新聞社

ヘルスケア分野で求められるコミュニケーションやチームワークの基礎を学ぶ 平成27年度新人教育集合研修を開催

平成27年3月に大道会へ入職した83名の新人職員を対象に今年度も「新人教育集合研修」を開催しました。本研修の目的やプログラム内容をご紹介します。

ヘルスケア分野で求められるコミュニケーションやチームワークの基礎を学ぶ



森之宮病院看護部福井副部長による講義「ヘルスケア分野で働く新人へ」



グループワークの手始めに、お互いの好きなものを掲げ下げることによって交流を図りました



ゲームでは各班が一致団結して取り組み、コミュニケーションの手法を学びました

3月24日～27日の4日間、平成27年度の新人教育集合研修を開催しました。本研修は、新人職員がスムーズに現場で業務に取り組めることを目的に、30年以上前から毎年実施しているもので、医療・福祉業界や大道会の概要をはじめ、社会人や大道会職員として働く上で必要な知識・スキル、ストレスとの付き合い方、個人情報保護の考え方等、幅広い内容を学びます。

今回の特集ではそれらの中で、「経営層から新人職員へのメッセージ」と、管理職を対象とした研修である「課題解決ワークショップ」のトレーナーによる「実践型のコミュニケーション研修」、「チームワークを学ぶグループワーク」の3つのプログラムに注目したいと思います。

経営層から新人職員へ期待を込めたメッセージを伝える

研修初日には天野常務理事が「新人に望む10のポイント」や「大道会の経営方針」等について講義を行いました。続いて、大道理事長の講義では、医療・福祉分野の正確な知識・技術を習得することや、様々な患者さん・利用者さんの価値観や社会的な背景を現場で経験し理解してい

くことが重要とのメッセージがありました。そして最後に、「全ての医療・ケアには理由があり、それらを理解して実践してほしい」と新人職員を激励しました。

ヘルスケア分野で求められるコミュニケーションの基礎を学ぶ

初めてヘルスケア分野で働くこととなる新人職員に向けて、医療・福祉組織の窓口として働くことの意義や必要な能力について、森之宮病院・正壽副部長、福井副部長が講義を行いました。また、森之宮病院・藤井課長、杉浦課長は、5W3Hを意識した「報告・連絡・相談」や傾聴の姿勢を身に付ける必要があるとアドバイスしました。医療コンシェルジュでもある森之宮クリニック・荒木課長は、ホスピタリティ・産業で重要な接遇の講義を行いました。その中では、お互いの身だしなみのチェックや「挨拶」を評価していました。

グループワークを通じて他職種とのチームワークの重要性を実感

新人職員同士の交流を目的に、森之宮病院・杉浦課長、柴田副部長、舘川科長、帝国ホテルクリニック・貝塚課長がファ



ゲーム終了後、各班の良かった点、改善すべき点について発表しあいました



基本的なコミュニケーションの技法について学びました

シリテーターとなり、異なる施設・職種のメンバーでグループを組んでグループワークを行いました。

初めに、自分の好きな音楽やスポーツ等を書く「私の偏愛マップ」と呼ばれるシートを使って、お互いの好きなものについて掘り下げていくことで交流を図りました。次に、チームで協力して紙を切つて輪をつなぐゲームを行いました。単純なゲームですが、制限時間内にかにか効率よく紙を切り、どれだけ長くつなげることができかをグループで競うため、メンバー間でしっかり議論を行い、自分の役割を意識して協力することが求められます。これらのグループワークを通して、「メンバー同士で言葉を交わす、アイコンタクトを取る、ジェスチャーをする」といったコミュニケーションが、チームワークを高める秘訣(ひけつ)であることを実感したと思います。

医療・福祉分野は様々な専門職で構成されており、チームで協力し合うことが必要不可欠です。今後、本研修で学んだコミュニケーションの方法やチームワークの秘訣を生かして、83名の新人職員がそれぞれの現場で活躍してくれることを期待しています。

平成27年度新人教育集合研修プログラム (*印は外部講師)

	3月24日(火)	3月25日(水)	3月26日(木)	3月27日(金)
研修内容・講師	入職式	在宅事業部 安井統括管理者 「大道会の在宅関連事業について」	大道理事長 「経営トップから 新人に望むこと」	森之宮病院歯科診療部 旭部長 「歯科診療部について」
	オリエンテーション (新人研修を受講するにあたって、 自己紹介)	帝国ホテルクリニック 健診部内科 沖永医師 「メンタルヘルスケア について」	互助会 稲富会長 「互助会活動について」	森之宮クリニック 企画広報部 荒木課長 「接遇講習① ～患者と顧客対応の実践～」
	天野常務理事 「新人に望む10のポイント」 「当会の経営方針&施設群」	本部管理部 高間主任 「オリエンテーション① ～個人情報保護について～」	森之宮病院看護部 外来看護科 吉田科長 「院内感染について」	森之宮病院看護部 福井副部長 森之宮病院看護部 正壽副部長 「トレーナー講義①社会人基礎 ～ヘルスケア分野で働く新人へ～」
	宮井副理事長 「森之宮病院が 目指すもの」	森之宮病院地域医療連携室 杉浦課長 森之宮病院看護部 柴田副部長、銚川科長 帝国ホテルクリニック 企画広報部 貝塚課長 「トレーナー講義② グループワーク (チームワーク)」	森之宮病院看護部 水谷課長 「診療報酬・保険のしくみ ～あなたが受診するとき のために～」	森之宮病院事務部 理事長秘書 川谷主任 「接遇講習② ～患者と顧客対応の実践～」
	ボバース記念病院事務部 下里主任 「トレーナー講義④課題解決基礎」	城東警察署 * 「防犯について」	森之宮病院事務部 水谷課長 「診療報酬・保険のしくみ ～あなたが受診するとき のために～」	グリーンライフ 濱田施設長 「介護老人保健施設 グリーンライフについて」
		城東消防署 * 「防災について」	本部渉外担当 峰部長 「医療機関における 防犯・防災について」	ボバース記念病院 今林院長 「ボバース記念病院が 目指すもの」
			本部管理部門 高間主任 「オリエンテーション② ～就業規則・ハラスメント・ 人権・社会保険について～」	YG検査
				人事課オリエンテーション (研修まとめ)
				※各施設に配属

新人職員 研修レポート

新人職員が研修後、提出したレポートの中から、抜粋して紹介します。



「思いやり」「気遣い」「優しさ」を大切に
コミュニケーションを心がけます

片上 侑香 本部管理部人事課

接遇講習では、接遇と接客の違い、そして医療における接遇の特徴を学びました。大道会の考える接遇は、相手に対する「思いやり」「気遣い」「優しさ」を言葉や目に見える形で表現することであるので、不安な気持ちを感じておられる患者さんに対して、よりきめ細やかな気遣いや応対が求められると思いました。また、コミュニケーションの基本は相互の存在認知であり、あいさつは相手の存在を認めていると積極的に伝える行為です。笑顔や声の大きさ、態度、姿勢によって印象も大きく変わることを実感したので、今後は気持ちの良いあいさつを心がけたいと思います。



「ありがとう」と言って頂ける職種
あることに誇りを持っていきます

前田 亮輔 森之宮病院リハビリテーション部
作業療法科

天野常務理事の「新人に望む10のポイント」の講義で、特に「医療・保健・福祉分野で働く誇りを持つ」というポイントに共感しました。医療・保健・福祉分野では、サービスを受ける患者さん・利用者さんから「ありがとう」と声をかけて頂くことができます。サービスを提供する側である私たちはそのことに誇りを持たなければいけないと感じました。初めて出会った入院患者さんや訪問の利用者さんから「ありがとう」と言って頂ける。そのような素敵な仕事ができる自分に自信を持ち、今後は作業療法士として誇りを持って仕事に取り組んでいきたいです。



利用者さんのその人らしさを尊重した
在宅サービスの重要性を理解できました

千崎 星嘉 ボバース記念病院看護部2階病棟

在宅事業部の安井統括管理者の講義では、在宅サービスにおいては利用者さんの生活に深くかかわっていくため、病棟より利用者さんとのつながりが長くなるのが分かりました。大道会は様々な在宅サービスを提供しており、急性期から慢性期、さらにはターミナル期まで長く利用者さんと関わりを持てるので、利用者さんのその人らしさを尊重したサービスが提供できるのではないかと思います。また、在宅を支援するにあたっては、利用者さんの変化を察知する観察力や1人で決断する勇気等も必要と知りました。専門分野以外の領域まで知識を広げるのは容易なことではありませんが、在宅分野はとてやりのある仕事だと感じました。



ストレスを上手にコントロールしながら
仕事に励みます

北岡 真由美 森之宮病院診療部医療社会事業科

帝国ホテルクリニック・沖永医師のメンタルケアに関する講義を受講しました。ストレスには、個人の心理的な内的要因や環境の変化等による外的要因があります。ストレスが全くない状態が続くと、かえって意欲低下等につながることもあるため、適度なストレスは必要とのことでした。ストレスへの対処方法として、ストレスを明確化し、どのような対処行動を取るべきかを考えることや、良い面に焦点をあてる「くせ」をつけること等のアドバイスがありました。自分自身や患者さんのためにも、ストレスを上手にコントロールできるように、対処方法を実践し、時には上司や友人に助けを求めながら乗り越え、頑張りたいと思います。

発表報告

International Anesthesia Research Society 2015 (国際麻酔研究学会)



森之宮病院診療部
麻酔科部長
鈴木 高広

傍脊神経ブロックの効果を探る研究成果を発表

日程：3月21日～24日
場所：ハワイ

International Anesthesia Research Society (ハワイ)にて、「胸部帯状疱疹後神経痛の難治性疼痛に対する傍脊神経ブロックの効果」という演題で発表しました。

帯状疱疹は幼少時に感染した水痘ウイルス(みずぼうそう)が脊髄神経節に生き残り、加齢や抵抗力低下に際し再活動、発症します。疱疹が消え、すつきりきれいになっても2～3割の人は痛みだけが残る帯状疱疹後神経痛に移行します。その場合、一生痛みが残ります。が、激しい痛みの場合は神経ブロック治療を行うことがあります。

今回の研究では、胸部硬膜外ブロックを1年以上繰り返し行ったにもかかわらず離脱できない人を対象に傍脊神経ブロックを導入しました。傍脊神経ブロックでは一時的(1～2日間)とはいえ、ほぼ完全な除痛を得られます。低血圧の心配のため高濃度高容量の麻酔薬を使用しにくい胸部硬膜外ブロックでは痛みがゼロの状態を獲得しにくいですが、低血圧の心配が要らない傍脊神経ブロックでは遠慮なく麻酔薬を

使えるために完全な除痛を達成できません。慢性痛の一因に中枢神経系に残った痛み記憶があります。一時的にでも除痛できれば戻ってくる痛みも程度が徐々に軽くなっていく様子が観察されています。この研究においては半数以上の人がブロック治療から離脱できました。一旦痛みが消えると気分がスッキリして活動性が高ると経験された人は言われます。中枢神経系での痛み記憶が薄れていくのでしょうか？痛みの悪循環を断ち切る一役を担っていると考えると考えます。



学会参加時の様子

発表報告

第6回日本ニューロリハビリテーション学会 学術集会



森之宮病院
リハビリテーション部
作業療法科主任
神尾 昭宏

ニューロリハに関する幅広い知見を臨床でどう応用するかを検討したい

日程：2月21日
場所：秋田ビューホテル

本学会は、医師やセラピスト、医療工学士等、神経系疾患の治療にあたる専門家がリハビリテーションについて情報交換することを目的としています。シンポジウム「脳卒中リハ最前線」では、骨格筋パルス磁気刺激装置、同名半盲

への反復視覚刺激、ボツリヌス療法、歩行練習アシスト装置等について講演があり、明日からの治療に役立つものがありました。ランチョンセミナー「脳梗塞と脊髄損傷の再生医療」医師主導治療による実用化」では、薬事承認をめざした治療内容が紹介されました。機能回復には薬剤投与とリハビリの組み合わせが重要だと述べられ、我々が適切なリハビリを提供できるようになることの重要性を再認識しました。

私が発表した演題は「脳卒中片麻痺患者の手指伸展運動時の主動作筋、拮抗筋、近位筋の活動特性」表面筋電図での検討」で、手指伸展に関する筋群の活動が麻痺側・非麻痺側で差異が見られるかを、表面筋電図を用いて検討したものです。運動中の筋活動を計測すると、非麻痺側では主動作筋の活動が増加していきますが、麻痺側では拮抗筋や近位筋も同時に活動が増加することを確認できました。また、麻痺側では主動作筋の速筋線維の機能不全が示唆されました。発表後、リハ介入前後の変化や末梢性筋疲労の観点からの考察等について議論を行い、今後の研究に役立つものでした。本学会を通して、ニューロリハに関する幅広い知見を、臨床でどのように応用すればいいかを考えるきっかけになりました。



検査時の様子

第7回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会は、2016年5月21日に森之宮病院宮井院長代理を大会長として開催されます。

参加報告

第30回日本環境感染学会 総会・学術集会



ホバース記念病院
看護部3階病棟主任
江本 幸代

手荒れを予防し、手指衛生の遵守率を向上させたい

日程：2月20日、21日
場所：神戸国際展示場

日本環境感染学会総会・学術集会では、医療・介護現場の感染症に関する、①教育、②耐性菌と抗菌薬適正使用、③サーベイランス、④手指衛生、⑤職業感染の5題材について、シンポジウムと教育講演、一般演題の発表がありました。現在、当院では感染リンクカースにおいてオムツ交換における手指衛生のタイミングのチェックを行い、擦式消毒剤の使用量を測定しています。そのため、手指衛生に関心を持ち、参加しました。一般演題の中で、手指衛生遵守率はオムツ交換の「手袋除去後」で14・9%、「手袋廃棄後」で25・4%と低く、標準予防策の理解が不十分であることが分かったとの発表がありました。この発表の成果を参考に、当院でも「手袋除去後の手指衛生」の課題と対策について分析する必要を感じました。

特別講演では、手指衛生に関して、医療従事者は「手荒れ」を生じるリスクが高い職業であり、中でも看護師はその頻度が冬期には90%を超え、夏期にも30%程度の有病率が報告されているとのことでした。「手荒れ」があれば手指

衛生の遵守率も低下します。医療関連感染の予防は、手指衛生に始まり手指衛生に終わるといわれています。今後の課題として、「手荒れ」を予防しながら、手指衛生の遵守率を向上していきたいという啓発活動を行っていききたいと思えます。

参加報告

ポバース記念病院 看護部接遇研修



ポバース記念病院
看護部外来看護科科长
笠松 明美

接遇研修を契機に 医療人としての自己を振り返る

日程：2月25日
場所：大道会本部

2月25日、医療コンシエルジュの森之宮クリニック・荒木課長を講師として接遇研修を行いました。患者サービス委員会の患者満足度調査より、看護師のコミュニケーションに関する貴重な意見があり開催に至りました。

病院の質を高める接遇力をテーマに、①クレーム対応は危機管理の要、②受診者の心理、③接遇の良し悪しは医療機関における医療の質を判断する基準、について展開しました。

①重要な事はクレームを発生させないことであり、予防・原因療法を実行することです。厚週期待の心理



荒木課長による講演の様子

や、公平に接してほしい、独占したい、劣等感を感じたくない、損をしたくない等の心理についての考え方です。

②事前期待と実績評価の比率やバランスにより現状維持・満足・不満となります。人間が最も辛い事は「無視」で、存在や価値を誰からも認めてもらえないと問題行動を起こします。また、サービスには「本質」「表層」の2種類があり、あればうれしいサービスである「表層サービス」を上げないと患者満足度は上がらないとのことでした。

③接遇とは相手に対する「思いやり」「優しさ」「気遣い」を言葉や目に見える形で表現したものです。医療機関に求められる接遇サービスは、アクションを起こさないと伝わりません。それは笑顔・挨拶・身だしなみ・言葉遣いです。「自分はできている」と思った時点で成長は止まります。できている・いないは他人が評価します。

講師は、利用者は何を求め、私たちは何を考え対応すべきなのかと、常々、自問自答しているということです。今回、

管理者として十分に考えて行動する習慣や、感性を高めるには、人の辛さ・悲しさを共感し、どのような言動をすればいいのかを考え、フィードバックをすることの大切さを再確認できました。また、成長し続けるように努力することが、よい職場環境を整える第一歩と考えますので率先して行動につなげたいです。

参加報告

第4回糖尿病足病変の 指導に従事する方の ためのフットケア研修



大道クリニック
人工透析科主任
中川 明美

適切なフットケアの提供に向け スタッフの知識・技量を高めたい

日程：3月7日～8日
場所：関東労災病院

今回の研修はエビデンスに基づいた技術・管理方法を学び、糖尿病合併症管理料加算を取得するために参加させて頂きました。透析看護に長年関わる中で、糖尿病から腎不全になり、透析治療に至る患者さんの増加を感じていました。糖尿病では様々な全身障害から合併症を発症します。末梢血管の循環不全から少しの傷で下肢切断に至る症例の看護にも関わってきました。患者さんの自己管理や理解も重要ですが、切断に至らない様に予防することの大切さやケアの充実が必要と実感していました。

糖尿病は代謝障害であり、高血糖というストレス環境に長く曝されることにより、動脈硬化症や易感染状態に陥ったりする全身性疾患としての認識が重要です。糖尿病足病変は突然起こるものではなく、様々な要因があり発症していきます。その進展プロセスの全体像を俯瞰できる能力を持ち、発症予防から治療支援に至る幅広い知識と技術を習得し、糖尿病足病変に携わる医療チームをコーディネートする看護師

が必要です。糖尿病足病変を予防するために、ケアに従事するスタッフは自身の技量を高めるとともに、常に限界を知り、適切なケア方法を提供できるよう努力する必要があると学びました。糖尿病患者さんへのフットケアの意義・看護師の役割については、患者さん自身が足のケアを生活に取り入れられる様に支援する、今後、下肢切断に至らない様に予防的に関わる、合併症を起さず、その人らしく生きることが支援するのが役割であると学びました。患者さんの思いや生活の様子を情報収集して、チームメンバーと協力して支援していかねばならないと考えます。情報収集をする上で、足病変に対してのアセスメント方法や項目は、スタッフ全員が把握しやすくアセスメントができる様に表記・実行されなければなりません。クリニックでもフットケアチェック表がありますが、うまく活用できていない現状です。マニュアルを含めスタッフがアセスメントしやすく表記しやすいものにしていきたいと思えます。ケアの必要性や、自己管理が重要であることを患者さんに理解してもらえぬ様に説明し、実施していくことが必要です。クリニックでは、毎月足チェックをしようとしていますが、継続できていません。スタッフの知識や技量の差もあり、足病変を起こしている患者さんに対してのアセスメントや処置を行っているのですが十分ではないと考えています。今回の研修で学んだことにより、患者さんの足病変が減る様にスタッフを教育して、患者さんの支援をしていきたいと考えます。

森之宮病院

第12回NPO医療講演会が 開催されました

2月21日、森之宮病院ウツ
ディホールで、第12回NPO
医療講演会が開催されまし
た。内容は、「本邦における脳
卒中の動向と病氣」「脳卒中に
より障害を持った人の身体状
況の体験」「排泄動作を通して
当院における回復期リハビリ
テーション看護の紹介」「脳卒
中チェック・脳卒中の予防・脳
卒中発症時の対処方法」の4
部構成でした。

今回、慢性疾患看護専門看
護師として講演の依頼を受け
ました。回復期リハビリテー
ション病棟には他に、脳卒中
リハビリテーション認定看護
師と回復期リハビリテーショ
ン病棟協会認定の回復期リハ
ビリテーション看護師がリン
クスナースとして存在しま
す。今回は、これらがタッグ
を組んで活動でき
る機会と考え、講演
会を企画しました。
脳卒中の発症に
は、生活習慣が大き
く影響しています。
脳卒中の後遺症に
よる身体の様子や、
回復期リハビリテ



参加型の手法も取り入れ、脳卒中の発症
予防等を学びました

リテーションの
リソースナース
で、様々な活動に
取り組んでいき
たいと思います。
(森之宮病院看護
部慢性疾患看護
専門看護師 西
村はるよ)

ーション看護では、その身体
にどのような働きかけをして
いるのかを説明します。次に、
発症予防や発症時の対処方法
を提供することで、参加者が
自ら対処でき、発症予防に努
めることができるのではない
かと考えました。そこで、麻
痺体験や参加者が自分で脳卒
中発症リスク等をチェックす
る機会を盛り込んで参加型講
演会とし、分かりやすい語句
で説明することも心掛けまし
た。

講演会には、NPO法人社
員及び賛助会員、地域住民の
方々120名が参加され、大
勢の皆さんを前に過度の緊張
にありましたが、「生活習慣に
注意していききたい等の反応
を得、大盛況で閉会できまし
た。これを機に回復期リハビ

森之宮病院

森之宮病院で落語の鑑賞会が行われました

2月25日、森之宮病院1階
こもれび広場にて落語の鑑賞
会が行われました。今回も、
昨年、お越し頂いた桂文我さ
んをお招きし、開催しました。

開演時間になり、桂文我さ
んが歓声と拍手の中、登場さ
れました。患者さんが「待つて
ました！」と声を掛けるほど
の大歓声で、いかにこの日を
楽しみにしていたかがうかが
えました。

今回は、昨年起こった事件
や話題になった出来事を交え
たクスッと笑える話、そう
だったのかと関心する話、そ
して奈良に関する話でした。

奈良の話は、鹿に関してで、
昔、鹿は神様同様大切に扱わ
れ、大切にしないことは罪に
当たるとされていたそうです。
ある日、鹿を犬と間違えて傷
つけてしまった方が罪からど
のようにして逃れられたかと



いう話でした。とても人情味
の溢れるお話で、皆さんの心
温まるひと時を過ごされたた
と思います。
(森之宮病院事務部フロント
サービス課 渡辺絵美)

ボパース
記念病院

ベトナムから 医師・看護師ら4名が来院

2月17日、ベトナムから、
レ・グエン・テユイ・カン医師、
グウエン・ティ・ホン・ミン看護
師と医療関係2名の計4名が、
当院の医学的リハビリテー
ションのシステム、セラピス
トの院内卒後教育制度と管理
運営を知る目的で来院されま
した。対応は古澤名誉副院長、
白樫看護部長、鈴木部長、寺澤
教育主幹、中窪科長が行いま
した。

午前中は医療保険・介護保険
におけるリハビリテーション
医療や、院内卒後教育の説明、
病棟の見学等を行いました。
病棟見学では、3種類の介護
浴室を訪れて入浴介護の実際
について、また配薬の工夫に
ついて熱心に質問されました。
午後は介護保険の訪問リハビ
リを阪本科員とともに見学さ
れました。
早朝から精力的に動かれ、
活発な質問もされて、新しい



ベトナムから見学のために来院された医
師・看護師らを囲んで

ものをできるだけ吸収したい
という強い意欲を感じました。
皆さんの表情を見る限り、大
変、有意義な時間を過ごされ
たように思いました。今後の
ご活躍を期待しています。
(ボパース記念病院リハビリテ
ーション部教育主幹 寺澤健)

地域ケアマネジャー向け 研修会を開催しました

2月10日、地域のケアマネジャーの方々にもっと訪問看護・訪問リハビリテーションの業務内容を知って頂きたいとの思いで研修会を開催、20名の方に参加して頂きました。日常の業務において専門職から見れば必要性はあるが、サービスが導入されていない(例特に要支援者に多い)が多いと感じており、これを少しでも解消することを目的に開催しました。講義ではなく、グループワーク形式での開催

とし、言葉を選びながらの進行となりました。研修後の反省会では、「上から目線」にならないことを意識

しすぎて、本当に伝えたい事が不鮮明になっていたのではないかとこの思いが全員の感想でした。ところが、アンケート結果は予想外に高評価で、他事業所のケアマネジャーと話す機会は少ないのでよい機会になった、介護保険領域で大道会が研修を行うことは非



グループワークに取り組む
地域のケアマネジャーの方々

常に意義がある、大道会はこの地域で歴史がありリードする責任がある、非常に勉強になった等の感想を頂きました。

介護保険領域においても当法人は地域の方々だけではなく、サービス提供者にも期待されており、この地域をリードしていく事は当法人のミッションであると感じました。アンケート結果を見て、毎年開催することを決心しました。
(在宅事業部統括管理者 安井学)

「第7回グリーンライフ・ ポバース記念病院歯科診療部 合同実践報告会」を開催しました

3月27日、森之宮病院にてグリーンライフとポバース記念病院歯科診療部の合同実践報告会を開催しました。今回は、グリーンライフ療養サービス部から4演題、ポバース記念病院歯科診療部から1演題の発表でした。また、4月からの介護報酬改定に伴い、改定のポイント説明もあわせて実施しました。当日はグリーンライフの職員だけでなく、大道会の各施設から多くの職員が参加しました。

最後に濱田施設長の講評では、全ての演題に対し、一つ一つ評価があり、「これらの成果が、今回の発表で終わることなく、引き続きグリーンライフの成長の糧となることを願います」と締めくくられました。

これからも、各部署は現状に満足することなく、利用者さんに寄り添い、日々研鑽を重ねていきたいと思えます。
(事務サービス部主任 奥田寛之)

医療法人 井上会 井上整形外科 井上 雅裕 医師

大阪市城東区永田2-6-29
06(6923)8027

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科



井上院長は東京大学理科I類を経て、昭和54年に日本医科大学医学部を卒業。カリフォルニア大学サンディエゴ校整形外科留学、大阪大学非常勤講師、関西労災病院スポーツ整形外科部長、大阪中央病院副院長を経て、平成24年に大阪市城東区に井上整形外科を開設。これまでに習得した診療技術を活かして、膝の痛みや腰痛で悩んでおられる患者さんに貢献できると思い開業をされました。整形外科学、特に関節鏡を用いた膝の日帰り手術を専門としています。

「腰痛や関節の痛みは誰にもわかってもらえないことが多いので、患者さんのおっしゃることを伺いながら的確な説明と治療を行うことを心がけています。痛みを諦めている患者さんが多い。痛みを抑える方法があることを知ってもらい、一人でも多くの患者さんに治ってもらおうと嬉しい。仕事が趣味といえは無粋ですが、患者さんの痛みが良くなるのが私にとって何よりの幸せです。」と話す井上院長。

今後の目標を伺うと「関節鏡手術が理解されて、日帰り関節鏡手術が普及することです。」と熱心にお答えになり、真摯に治療に取り組んでおられる姿が印象的でした。

(森之宮病院地域医療連携室 平野奈央)

実践報告会の目的は、日々のケアを振り返り、「ここがもう少しできれば」「あの足りない部分を補うにはどうすれば良いのか」といった大小様々な疑問や課題を解決し、より良い方向へ導くところにあります。今回の発表テーマも、ADLの維持・向上、褥瘡予防、レクリエーション活動の工夫、口腔ケアといった内容で、どれも現場の職員がもっと良くしていきたいという気持ちが表れた内容でした。



各施設から多くの職員が参加した合同実践報告会。
成果が現場で生かされることが期待されます

森之宮病院神経内科 藤本宏明医師が医学博士号を取得しました

このたび、大阪大学大学院を4年で無事に卒業し、医学博士号を取得しました。テーマは、近赤外分光法を用いた「脳卒中後の片麻痺患者における立位姿勢バランス能力改善と大脳皮質活動との関連性」の縦断的検討で、バランス能力改善と補足運動野活動との関連性を示しました。

日常診療の忙しさの中での研究時間確保や講義参加は大変でしたが、

宮井副理事長や大阪大学の三原特任助教をはじめ、諸先生方のご指導ならびに大道会のご支援により、やり遂げることができました。国際学会発表の機会も頂き、当院の研究内容への世界的注目度も実感でき、審査会発表時の自信につながりました。さらに神経内科専門医・リハビリテーション科専門医の資格も取得しました。

今後も、患者さんのADL改善に貢献できるよう臨床・研究に励みます。
(森之宮病院診療部神経内科 藤本宏明)



学位記を手にする藤本医師

入職医師・歯科医師のご紹介

森之宮病院に8名の医師と1名の歯科医師が新たに着任しました。外科は大沢部長を中心に常勤3名体制となりました。消化器がんや腹部救急疾患等への診療に、より一層取り組んでいきます。心臓血管センター循環器内科は川崎部長を中心に常勤3名体制となりました。下肢閉塞性動脈硬化症等、末梢動脈疾患への対応を強化していきます。心臓血管センター心臓血管外科は大久保部長・加藤部長を中心に常勤6名体制となり

ました。最先端の腹部・胸部大動脈瘤や大動脈解離のステントグラフト治療に取り組んでいきます。乳腺センター乳腺・内分泌外科は丹治部長を中心に常勤2名体制となりました。今後も患者さんに寄り添う乳がんの治療を行います。その他、神経内科や小児整形外科、歯科診療部にも医師・歯科医師が入職しました。

受診をご希望の際は森之宮病院にお気軽にご連絡下さい。



外科
小倉 徳裕



外科
高木 睦郎



心臓血管センター
(循環器内科)
福永 匡史



心臓血管センター
(心臓血管外科)
赤井 淳



心臓血管センター
(心臓血管外科)
稲葉 雄亮



乳腺センター
(乳腺・内分泌外科)
野村 昌哉



神経内科
角田 溪太



小児整形外科
久野 亜積実



歯科診療部
高尾 香名

在宅事業部に新しく安井学統括管理者が就任しました

安井統括管理者は平成12年に理学療法士として大道会に入職。大道病院とボバース記念病院で勤務してきました。平成25年4月からは在宅事業部の訪問リハビリテーションに専従しています。親しみやすく、利用者さ

ん思いの新体制で在宅事業部はさらに発展していきたいと思います。
(在宅事業部主任 新谷佳久)



ご寄付を頂きました

赤塚キミ子様(大阪市城東区)よりご寄付を頂きました。ありがとうございます。有意義に活用させていただきます。

Live30【ライブ・サーティー】 2015年5-6月号 vol.210 〈隔月発行〉

編集発行人／社会医療法人 大道会
〒536-0023 大阪市城東区東中浜 1-5-1
TEL.06(6962)9621 FAX.06(6963)2233

■大道会

社会医療法人大道会本部
T EL 06(6962)9621
森之宮病院
T EL 06(6969)0111
ボバース記念病院
T EL 06(6962)3131
森之宮クリニック(PET 画像診断センター)
T EL 06(6981)9600
帝国ホテルクリニック(人間ドック)
T EL 06(6881)4000
大道クリニック(人工透析)
T EL 06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ
T EL 06(6965)0666
訪問看護ステーションおおみち
T EL 06(6967)1123
訪問看護ステーションおおみち森之宮営業所
T EL 06(6942)3737
訪問看護ステーション東成おおみち
T EL 06(6977)8680
ケアプランセンター城東おおみち
T EL 06(6964)5285
ケアプランセンター東成おおみち
T EL 06(4259)5311
レンタルケアおおみち
T EL 06(6967)6250

特別養護老人ホームサンローズオオサカ
T EL 06(6974)7388
東成山手学園(保育園)
T EL 06(6974)7377

●パソコン <http://www.omichikai.or.jp>
●携帯 <http://www.omichikai.or.jp/i.cgi>

バーコードを読み取っていただくと、大道会の携帯サイトにアクセスできます。



編集後記

1年のうちで体調を崩しやすい季節が「梅雨」。6月頃、雨でじめじめした時期を「蝦夷梅雨(えぞつゆ)」と言います。高温多湿によるカビ・ダニ・細菌の繁殖等により、多くなる食中毒への注意が必要です。食中毒の予防策として、「手洗い」が最も重要です。もし、腹痛や下痢等の症状が現れた場合は、速やかに受診し、相談しましょう。私も身近な対策をしっかりと行い、花火大会や野外ライブで楽しい夏を迎えたいと思います。
(広報推進委員・森之宮病院歯科診療部 福田早莉)